

| |
|--|
| 経済同友会 2026 年度（第 21 期）リーダーシップ・プログラム 開催要領 |
|--|

2026 年 2 月
公益社団法人経済同友会

1. 目的

先見的な知見と幅広い視野を有し、社会のリーダーとしても活躍し得る、経営トップ層を育成すること

2. 修了目標（ディプロマポリシー）

本プログラムでは、経営トップ層や有識者からの講演や参加者間での対話を通して、あるべき経営者像や政治・経済・社会のあり方について、深く考え社業を超えて社会課題の解決に向けて前向きに行動できる人材の育成をめざします。修了にあたっては、以下の 3 つの能力を総合的に養うことを重視します。

① 組織マネジメント

組織のビジョンを描き、組織が持つ力を最大限引き出すために、不断の変革を推進する意識と行動力を身につけていること

② 自身のリーダーシップの確立

自らの価値観や強みを内省し、多様な人材を巻き込みながら成果を生み出すリーダーシップを体得していること

③ 社会全体を俯瞰する視野の広さ

企業経営の枠を超えて、社会課題に目を向けて、その解決に寄与する意識を備えていること

3. 研修内容・方法（カリキュラムポリシー）

本プログラムでは、経済同友会が培ってきた実践知と社会的ネットワークを基盤に、次世代リーダーに求められる素養を養うことを目的として、体系的かつ実践的な学びの機会を提供する。

① 経営トップ層や有識者による講演およびディスカッション

第一線で活躍する経営トップ層を招き、自身の体験や信条など実践知に基づいた講演および対話型セッションを行う。また、アカデミアからの有識者を招き、哲学的な視座から見たリーダーシップに関する講演を行う。

② 年2回の合宿

実際に地域課題に触れながら視野を広げ、集中プログラムを通して参加者同士のネットワークを強化する。また、「社長・代表就任」を仮定したスピーチなどを実践し、トップとしての覚悟と表現力を磨く。

※2025年度の例：能登合宿（8月）、宮崎合宿（3月）

③ グループ研究

社会・経済を取り巻く環境を踏まえ、解決すべき社会課題や経営課題について少人数のグループごとにテーマを設定し、自主運営のグループ研究を行う。

※2025年度の研究テーマの大枠：社会課題×企業経営者としてのコミットメント

4. メンバー募集（アドミッションポリシー）

① 参加資格

- 企業等の若手役員（主に執行役員クラス／非会員）で、将来のトップマネジメント候補者の方であり、プログラム卒業後、本会の会員になっていただける可能性の高い方（1社1名）。
*過去参加者累計449名のうち、現在までに133名が本会に入会。
*過去参加者累計449名のうち、現在までに178名が各社の社長に就任。（関連会社を含む）
- 原則として会合の8割以上のご出席を目安とし、2回の合宿にご参加いただける方のご参加をお願いいたします。

② 定員

最大24名

③ 参加時に求められる姿勢

- **率直に本音で議論をしていただく**

本会の委員会活動においては、発言者は事務局が予め用意したコメントを読むといった形式的なことをせず、「一企業や業界の立場を超えた個人としての意見」を自由にご発言いただいています。本プログラムでも、参加者各位が率直に本音で議論をしていただくことを目指します。

毎回お招きする講師とのやりとりも、単に講演と質疑応答といった型通りのものではなく、共に考え、悩み、語り合うことをお願いしています。

- **徹底的に考え抜いていただく**

より幅広い視野を養っていただくためには、参加者自らに徹底的に考え抜いていただくことが必要です。その意味で、会合時に積極的にご発言いただくことはもちろんですが、毎回の会合終了後に簡単な「所感文」を提出していただきます。参加者各位が、当日の議論内容を、その場で振り返りながら、あらためて熟考していただくプロセスを重視します。この「所感文」は、講師の方々にもお届けします。

- **プログラムを共に作り上げていただく**

本プログラムでは、参加者からご意見やご希望を随時伺いながら、その目的を達成するために必要な最善の方法を、共に創り上げていっていただきたいと考えております。

5. 実施期間：2026年5月～2027年3月

- 第1回会合（予定）： 5月28日（木）18:00～20:30@丸の内近辺
- 夏の合宿（予定）： 7月10日（金）夕刻～12日（日）
- 通常会合： 6月～翌年2月にかけて、月1～2回程度のペースで
原則18:00～20:00に開催
会合日程は、決まり次第、先々までお知らせいたします。
- 総括合宿（予定）：2027年3月12日（金）～3月14日（日）

※各会合の正式なご案内は、メンバー確定後に、ご本人様へお送りいたします。

※会合はリアルで開催し、リアルでのご出席を原則とさせていただきます。

6. 2025年度参加者の声

普段はなかなか接することのない皆様からクローズドな講演を拝聴することができ、毎回大きな刺激を受け続けております。また、参加者間でも事業内容、規模、状況が様々な中、合宿やグループ発表に向けた協働など、本プログラムに参加しなければ得ることがなかった素晴らしい経験をさせて頂いております。（匿名希望）

リーダーシップ的な視点はこれまで様々な形で学ぶ機会があったが、リベラルアーツ側面からのパースペクティブと、リーダーシップ×リベラルアーツ視点での判断力や実行力の視点は、経済同友会オリジナルのプログラムだと思って、受け止めています。（51歳部門長）

講話内容が、講師の皆さんの貴重なご経験に基づくものであったり、視座を引き上げてくれるものであること。テーマもリーダーシップや危機管理、哲学、歴史など幅広いこと。プログラム参加の皆さんと対話を重ねることで、自身を見つめ直すことができたこと（53歳執行役員）

各回の講義内容に加え、受講メンバー同士の率直な意見交換を通じて、リーダーとしての意思決定や、人・組織との向き合い方について改めて考える機会となりました。さまざまな業種の経営リーダーの経験や視点に触れることで、自分の視野が広がるとともに、視座が高まり、多くの新たな気づきや学びを得ることができています。(56歳上席執行役員)

7. プログラム実施の様子



2025 年度能登合宿：能登半島視察



2023 年度軽井沢合宿：岩井睦雄氏講演

以 上

【参考】2025年度 リーダーシップ・プログラム 開催一覧

(敬称略、役職は開催当時)

| No. | 講演者 | 所属先・役職 | タイトル |
|-----|---|---------------------------------|---|
| 1 | オリエンテーション / 懇談会 | | 今年度のリーダーシップ・プログラムについて |
| 2 | 能登合宿 | | |
| | 岩井 睦雄 | 日本たばこ産業 取締役会長 | リーダーシップの旅 |
| | 大西 健丞 | ピースウィンズ・ジャパン 代表理事 | 危機のリーダーシップ ーリスクの共有という共同体意識ー |
| | メンバーによる個人スピーチ | | 社内外の情勢を踏まえ、我が社の最大の課題は何か？ 私は当社のトップとしてそれにどう取り組むか |
| 3 | 河野 龍太郎 | BNPパリバ証券 経済調査本部長・チーフエコノミスト | 日本経済の死角、世界経済の死角 |
| 4 | 廣田 康人 | アシックス 取締役会長CEO | 日本発のグローバルスポーツブランドに向けて |
| 5 | ジュニア・リーダーシップ・プログラムとの合同開催 / 懇談会 | | |
| | 関根 清三 | 東京大学大学院人文社会系研究科・文学部 名誉教授 | 哲学の2つの視座 ーリーダーシップ論に寄せてー |
| 6 | 山口 明夫 | 日本アイ・ビー・エム 代表取締役社長 | AI時代の企業変革とリーダーシップ |
| 7 | 小柴 満信 | Cdots 共同創業者 | 地政学、資本市場、テクノロジーのトレンドから 見える新しい世界秩序の始まり |
| 8 | リーダーシップ・プログラムとの合同開催 / 懇談会 | | |
| | 井上 文則 | 早稲田大学 文学学術院 文化構想学部 教授 | 危機の時代のリーダーシップ-二人の改革者ローマ 皇帝ウァレリアヌスとディオクレティアヌス |
| | 岡本 隆司 | 早稲田大学 教育・総合科学学術院 教育学部 教授 | アジア史と中国史 |
| 9 | 峰岸 真澄 | リクルートホールディングス 取締役会長 兼 取締役会議長 | リクルートの経営 |
| 10 | OBOG合同懇談会 | | |
| | リーダーシップ・プログラム 第1期～第20期 メンバー ジュニア・リーダーシップ・プログラム 第1期～第12期 メンバー | | |
| 11 | 南部 智一 | 住友商事 取締役 副会長 | 地政学リスクと企業経営 ー激変する世界情勢下におけるリーダーシップ |
| 12 | 吉松 徹郎 | アイスタイル 取締役会長 CEO | @cosmeのつぶれない話 |
| 13 | 宮崎総括合宿 | | |
| | 寺田 航平 | 寺田倉庫 取締役社長 | 未定 |
| | 安田 結子 | ボードアドバイザーズ 取締役副社長 | 未定 |
| | メンバーによる個人スピーチ | | 社長・代表就任演説 |
| | グループ研究成果発表 | | 社会課題×企業経営者としてのコミットメント |